

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4270105077
法人名	医療法人 秀和会 釣船医院
事業所名	グループホーム 『おお空』
所在地	長崎県長崎市かき道1丁目29番8号 (電話) 095-839-9939
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年 9月18日

【情報提供票より】（平成19年8月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤6人, 非常勤14人, 常勤換算17.5人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1 ～2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	48,000 円
敷 金	有 (円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,100 円	

（4）利用者の概要（ 8月 1日現在 ）

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低 71 歳	最高 91 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	(医)釣船医院、(医)泉田外科、鳥越歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの建物は住宅地の斜面地に位置し日当たりが良く窓から見える景色もすばらしい。医療では完結できない患者の行く先である介護との融合で末永い見守りができることを掲げた理念に理事長の利用者への思いが込められている。母体が病院であることで緊急時の対応や医療連携体制により入院の回避や早期退院の支援などが受けられ安心である。ホームにはよく家族が訪れスタッフとの会話も多くそのことで利用者や家族の要望を聞き取りその後の対応にいかしている。運営推進会議には利用者も参加し活発な意見交換がなされており、指摘を受けた事項については次の会議までに改善し報告されるなどホーム運営への前向きな姿勢がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 地域への理念の啓発については2ヶ月に一度発行するホーム便りの配布の取り組みが見られた。また、緊急時の対応についてはホーム内でミニ研修会を開くなど改善が見られる。しかし、研修については案内が来た分への受講となっているため今後は計画的な参加へ向けた取り組みに期待する。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 部分的には担当のスタッフへ確認等を行っているが、ほとんどが責任者の考えで記載されているためスタッフ全員で取り組みを行うことを希望する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 年間4回の実施を予定している。運営推進会議での指摘事項についてはスタッフや運営者等で検討・改善を行い次の会議において報告をするよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 利用者や家族からの苦情・不満などはスタッフで検討したのち家族等へ説明し理解を得るようにしている。また、改善点があった場合運営者を含めスタッフに徹底し情報の共有化をはかり、さらに重要案件については運営推進会議で報告・説明を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 日頃より挨拶を交わし近隣の商店などには緊急時等の場合には協力をお願いしている。また、お祭りや運動会など地域の行事には積極的に参加し、ホームでの催し物には地域の方々に参加してもらうなど地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初からの理念である「いっしょに いつも いつまでも」というスローガンを掲げ、利用者とともに末永く安心して暮らせる場所を提供するために努力しているが、理念から地域との密着性について読み取れない。	○	グループホームの基本方針が制度改正により地域との密着性が重視されるようになったためこれまでの理念に加え地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっていることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	意識付けの具体策として、毎日あいさつのときに理念を読むようにしているが、理念の意味合いについては管理者からの説明が十分ではない。	○	管理者からの理念の意味合いについての説明が十分になされていないようであるため実践に向け理念を共有するよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭り、運動会、ペーロンの応援など自治会行事には利用者と共に積極的に参加し、また、ホームでの催し物に地域の方々の参加もうかがえる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については管理者が主体となり所々についてスタッフの意見を聞き作成している。外部評価はスタッフにも公表し全員で前回の改善に取り組んでいる。	○	自己評価及び外部評価については全スタッフにより評価・改善等を検討し取り組むことが望ましい。

グループホーム『おお空』

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に一度の割合で実施されていることが議事録で確認できた。毎回、出席者からの指摘に対し改善を実施し次の会議までに報告するようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスでの問題点、取り組み等の疑問点についてわからないとき質問しているが、定期的には連絡は取り合っていない。	○	ホームの取り組みの報告や介護研修の受入など積極的に市町村と関わるため密に連絡を取り合うことを希望する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理について毎月報告しているがその折にケアプランの説明や近況報告をしている。また、各ホームごとの月間目標を記載したホーム便りも手渡ししている。なお、手渡しできない場合は郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際にホームに対する意見等を伺うようにしそれを会議等で各スタッフが共有できるよう報告している。また、玄関には苦情箱を設けている。ホーム以外に外部への苦情等の窓口も文書にて告知している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	普段から担当以外のスタッフも利用者と接する機会を多くしてとっていることで異動によるダメージを小さくしている。また、必要以外の異動は極力抑えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2回のホーム内研修を実施している。また、スタッフ会議の中でミニ研修を実施している。研修報告は回覧や掲示板への掲載、報告会での報告も実施している。研修計画については今のところ実施していない。	○	研修の年間計画を立てて業務時間内にすべての職員が受講できるような仕組み作りを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフが個人で連絡を取り合ったりはしているがホーム同士での交流は今のところない。	○	同業者との交流する機会を持ちその活動を通じてホーム及びスタッフのより一層の資質向上を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がサービスを利用する前に本人の不安を取り除くためホームの見学をしてもらいホームの雰囲気などに馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を理解する努力をしている。また、料理作りやピアノの演奏、生け花などを利用者から教えてもらうことで共に過ごし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との対話や表情、態度から本人の意向を確認した、家族からも訪問時に利用者の考えていることなどを聞き出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を交えスタッフ全員でアイデアを出し合い計画を作成している。家族の同意もいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	40日に一度のモニタリングによりスタッフ会議にて半年に一度の計画見直しを実施している。面会時に家族の意見も伺いながら見直ししている。なお、退院後には必ず見直しするようしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援などを実施している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関する文書を保管しており利用者の症状の変化にも対応できるようにしている。また、釣船医院との連絡も密である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	理念に謳われたとおり看取りまで行う方針である。看取りケアに関する同意書もあり、過去に一例看取りケアによる対応を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけるような言葉かけやプライバシーの配慮に注意を払っている。利用者に対しては個人情報に関する同意書、スタッフには誓約書にて個人情報の取り扱いを規制している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人のリズムを把握しそれに合わせて生活が単調にならないよう配慮している。例として入浴はいつでも自由に出来るよう支援している。		

グループホーム 『おお空』

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はもとより買い物にも一緒に行き楽しく食べるための支援をしている。また、食事はスタッフと一緒に食べ、食事の時間はテレビを消し音楽を流し雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の利用者の体調に合わせ昼夜を問わず自由に入浴できるよう支援している。また、利用者の入浴される順番、異性入浴介助は利用者の気持ちに配慮し個別対応している。なお、入浴できない場合には足浴ができるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦を記した個人チャートをベースに利用者の得意とすることを把握し毎日の役割作りの支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や足腰の衰え防止の散歩、催し物やレクリエーションでの外出など出来るだけ外出の機会を多くしている。また、広い屋上を利用しちょっとした散歩も楽しめるようにしている。車椅子の利用者の外出は家族とともに行うこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出るとすぐ国道に面しているため建物の玄関ならびにユニット入り口が施錠されている。	○	ユニット入り口の施錠をしているため見守り等により施錠しなくていいような仕組みづくりに期待したい。

グループホーム 『おお空』

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年1回の避難訓練を消防署と連携し実施している。夜間を想定した訓練もしておりマニュアルに沿って実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表により食事量や排泄などを把握している。栄養バランスについてはスタッフの知人の栄養士に時々確認してもらっている。	○	水分摂取についての記録がないためチェック表等を作成・記録し支援することが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝から必ず換気を行い、光の調節はカーテンにより行われている。また、共用空間と居室の温度差が出ないようにすべてをエアコンで調節している。リビングからのベランダには家庭菜園があり季節の花や野菜を栽培している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品が持ち込まれている。重度化に対応するため電動ベッドを備え付けている。また、夫婦で利用している場合はひとつの部屋を寝室にもう一方の部屋をリビングに使えるよう支援している。		

※  は、重点項目。